

瑞医

世界に羽ばたくMEDIPORT
2011.9. VOL.16

極 研究&教育 Current topics in research and education	人 時の人 People in the news	楽 学生生活 Campus life	技 最新医療の紹介 Latest developments on the medical front	和 お知らせ Information
---	-----------------------------	-----------------------	---	-----------------------

名古屋市立大学における男女共同参画の取組み

みなさん、男女共同参画という言葉をご存知かと思います。男女共同参画社会とは、男女がその人権を尊重しつつ、責任を分かち合い、性別にかかわらず、それぞれの個性と能力を十分に発揮し、あらゆる分野に対等に参画できる社会のことです。

日本の男女共同参画の現状を、国際的に見てみましょう。2010年に国連開発計画が発表した人間開発報告書によると、日本の人間開発指数は169か国中11位と高い順位にあります。その一方、世界経済フォーラムが2010年に発表したジェンダー・ギャップ指数は、134か国中94位で、先進国の中では最低ランクです。このことより、日本は健康的で教育水準が高く、人間らしい生活を送れる国であるのに、女性の社会での意思決定の場への参画が極めて低いと言わざるを得ません。この現状を踏まえ、国の第3次男女共同参画基本計画(2010年12月閣議決定)でも、科学技術・学術分野における男女共同参画や医療分野における男女共同参画の推進は、重要な課題として認識されています。

本学では、男女共同参画の理念実現のために、2008年に理事長直下の組織として男女共同参画室が設置されました。参画室の主な役割は、基本方針・行動計画案の策定、事業の企画・立案、事業の実施、事業報告書の作成です。各学部を代表する男女共同参画推進委員会(2009年に発足)と連携しながら、教育・研究・雇用の各分野における男女共同参画の推進に取り組んできました。

2010年度には、ハラスメント研修会の開催やジェンダーバランス調査、研究者の研究活動に関する調査の実施などに精力的に取り組んできました。2011年度は、第2期次世代育成支援行動計画の策定や男女共同参画シンボルマークの募集、女性研究者インタビュー集の作成、来年度から実施する教養教育科目の検討など、さらに多くの課題に取り組んでいます。

また男女共同参画を推進し女性が能力を發揮できるようにするには、仕事と子育ての両立環境の整備も欠かせません。本学では2008年に全ての学生・教職員を対象とした学内保育所を開設しました。2010年には院内保育所と統合し、「さくらんぼ保育所」として、教職員のニーズに合わせた保育を行っています。

2011年5月現在で、本学部でも、学部生の女性比率28.2%に対し、女性教員比率は13.8%と、女性教員の割合は低い傾向にあります。さまざまな取組みを通して、本学にかかわる全ての学生と教職員が、性別にかかわらず能力を發揮できる大学を作っていくことが、男女共同参画室の使命だと思っています。

詳しくは、ホームページをご覧ください。<http://www.nagoya-cu.ac.jp/1259.htm>

男女共同参画室 室員 鈴木 貞夫(公衆衛生学 教授)



昨年度開所した「さくらんぼ保育所」

学内保育所利用者の声

「昨年我が息子は”魔の二歳児”真っ盛り。育児に不安や疑問が満載でした。度々園の先生には親身に相談に乗ってもらい何とか乗り切った感じです。他の認可園に比べきめ細かく親子をサポートしてくれる頼もしい存在。感謝しています。」(学生)



「娘は2ヶ月の時からお世話になって、丸一年が経ちました。温かい先生方に見守っていただいて、いきいきと成長しています。そして、私も産休明けすぐに復帰し、安心して仕事ができるのも、子供を安心して任せられる「さくらんぼ」という場所があるからだと改めて感謝しています。」(教員)



本学では女性教職員のために院内保育所を設置、女性の就労支援に積極的に取り組んでいます。

“瑞医の由来”

「瑞医(ずいい)」という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPORT」は、「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出発し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。

連携病院

名古屋市立西部医療センター

新病院 Open!

当院は今年の5月1日に名古屋市立城北病院から新築移転しました。病床数500床、診療科目は30診療科で、歯科口腔外科を除くすべての診療科の医師は名古屋市立大学から派遣していただいています。

病院のキャッチフレーズは“女性と子どもにやさしい病院”“がん医療を支える病院”です。当院は平成20年に“赤ちゃんにやさしい病院”に認定され、地域周産期母子医療センターとして周産期医療センター、小児医療センターによる救急医療、高度専門医療を行うほか、女性病棟も整備しています。

また、消化器腫瘍センターではカンサーボードを開催し、チーム医療を重視した悪性新生物医療を実践しています。来年度には東海3県で唯一となる陽子線がん治療施設が開院予定で、副作用の少ない“痛みのないがん治療”を推進します。

その他、高精度放射線治療機器、PET-CTなど最新の医療機器を導入するとともに医療スタッフの専門性を結集し、地域の皆様から選ばれる中核病院をめざしております。

名古屋市立西部医療センター
院長 勝見 康平



新しくなった西部医療センター

教育

学術論文入門ユニット実施中!

原著論文に悪戦苦闘?

医学部3年では、前期の6月から10月の間、論文抄読会形式のグループ学習を実施しています。始めに川澄分館司書の方による上級レベルの文献検索演習を行い、その後、グループ担当教員の設定したテーマをもとに、各自PubMed等を利用して検索を行い、担当する原著論文を入手します。グループ演習では、その内容をPowerpointや発表プリントとしてまとめ報告します。初めて原著論文を読むという学生も少なくなく、英文を読むことに加え、内容を理解するのに苦戦しています。ただ、実際には、教養教育から基礎医学講義で学んだ知識をもとに、皆、素晴らしい発表を行ってくれます。この演習は、最新の研究に触れるだけでなく、後期から始まる基礎自主研修を前に医学研究の意義を理解する体験になります。

原著論文から常に新しい医学知識を得ることは、研究者だけでなく臨床医にも求められることであり、原著論文を読むことの重要性を感じ取ってもらいたいと思います。

(分子神経生物学 教授 浅井 清文)



発表は緊張しますが、貴重な経験ですね

研究者紹介



Motohiko Suzuki

鈴木 元彦(すずき もとひこ) 耳鼻咽喉・頭頸部外科学(准教授)

専門:鼻科学、アレルギー

アレルギーは我が国において「国民病」と言われるほど多くの患者が罹患し、今後その患者数はますます増加すると考えられています。しかし現在のアレルギーに対する治療は相変わらずアレルギー反応の下流をターゲットにした治療法のみです。RNA干渉は特異的な塩基配列をもつ遺伝子が分解される現象で、これを利用して特定の遺伝子発現を抑制することが可能となります。私はこのRNA干渉に注目し、アレルギーに対する治療法としての可能性を研究してきました。今後現在の研究をさらにすすめ、アレルギーに対する新しい治療法を確立したいと考えています。

近年の論文: J Allergy Clin Immunol 125:737-43(2010), J Immunol 184:6457-64(2010), Blood 113:2646-54(2009), Crit Rev Immunol 29:443-68(2009), Am J Pathol 173:973-80(2008), J Immunol 180:8461-9(2008), Clin Immunol 127:313-21(2008), Expert Opin Biol Ther 8:191-9(2008), Int Immunol 20:285-93(2008), J Immunol 178:5480-7(2007)



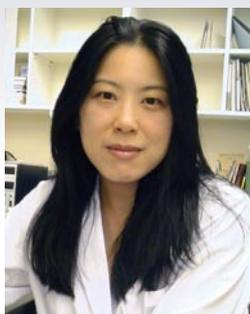
Toshio Shigetomi

重富 俊雄(しげとみ としお) 口腔外科学(講師)

専門:口腔外科学

口腔外科学の中で『顎骨の再建』『骨の再生』という研究テーマは歴史が古く、多くの研究発表がされてきました。また、デンタルインプラントという治療法の登場により、形態回復にとどまらず、機能回復への道も開かれるようになりました。当科では、頭頸部癌の術後、顔面外傷、先天異常等による顎骨の欠損・発育異常に対して骨延長術・再建術・骨移植・デンタルインプラント等を行い、口腔機能の回復を行ってまいりました。現在、デンタルインプラントを高度先進医療に申請中であり、通常の補綴処置(義歯等)が困難な症例、特に頭頸部癌の術後(顎骨切除)に顎骨再建・再生、インプラントを行っていかうと考えております。

近年の論文: Oncology reports (2011);25(6):1525-32, International journal of radiation oncology, biology, physics (2011);79(5):1428-35, Oncogene (2010);29(15):2181-91, Cancer science (2008);99(10):1916-23.



Kaori Asamitsu

朝光 かおり(あさみつ かおり) 細胞分子生物学(講師)

専門:分子生物学

1981年に最初のAIDS症例が報告されてから四半世紀以上が経過し、病因としてのHIVの特定から、感染様式、発症機構の解明など膨大な知識が得られています。しかしながら、HIV感染やAIDSの毎年の発症者数は減少することなく増加しています。また、HIV感染に対するHARRT療法の確立により患者の長期生存が可能とはなったものの、高頻度の副作用や多剤耐性ウイルスの出現など、新たな問題が噴出してきているのが現状です。そこで、これらの問題を解決するために新たな作用機序を持つ抗HIV薬を開発するための基礎研究を行っています。

近年の論文: J Mol Biol. 410: 21763-21494 (2011), FEBS Lett. 585:1103-1111 (2011), J Biol Chem. 285:28097-28104 (2010), Curr Drug Metab. 11:431-435 (2010), J Pharmacol Exp Ther. 333:236-243 (2010) FEBS J. 276:7124-7133 (2009), J Biochem. 144:581-589 (2008), J Biol Chem. 283:7834-7843 (2008), Cancer Sci. 99:615-622 (2008)



Masanori Isaka

井坂 雅徳(いさか まさのり) 細菌学(助教)

専門:細菌学、粘膜免疫学

劇症型レンサ球菌感染症は短時間のうちに軟部組織壊死(人喰いバクテリア)や多臓器不全を引き起こし、突発的なショック症状から患者を死に至らしめることが多い重篤な疾患でtoxic shock-like syndrome (TSL)あるいはstreptococcal toxic shock syndrome (STSS)とも呼ばれています。日本においても20年程前から報告されるようになった再興感染症の一つです。我々は、この劇症型A群連鎖球菌の、未だ解明されていない発症機序や、免疫防御回避機序、劇症型への変化等を、遺伝子組換え操作を駆使して明らかにしたいと考えています。

近年の論文: BMC Microbiol. 17;10:144(2010). APMIS. Mar;118(3):167-78(2010). Curr Microbiol.;61(2):101-5 (2010). Microbiology.;156(Pt 1):184-90(2010). Antimicrob Agents Chemother.;54(1):98-102(2010). FEMS Microbiol Lett.;298(1):67-73(2009).

新任教授のご紹介

名古屋市立大学大学院精神・認知・行動医学分野 — 明智 龍男 教授

Q:今後の抱負をおねがいします。

本年6月1日付で、精神・認知・行動医学分野の教授を拝命いたしました。

私は名市大に赴任させて頂く前に、国立がん研究センターでがんの患者さんのこころの領域の診療、研究に携わって参りました。国立がん研究センターでは、がんの克服を目的に日本中から医師や研究者が集まってきており、一部の方は全てをがんの克服のために捧げるような生活をされており、彼らの迫力に圧倒されたことを今でも覚えております。また自身の診療としては、進行・終末期のがん患者さんやそのご家族を大変たくさん診せて頂き、実に多くのことを教えていただきました。このときの経験は今でも私の臨床医としての基礎となっております。

私自身、2004年に名市大の一員に加えていただき今年で8年目を迎えました。

私は広島出身なのですが、家族も住み心地が大変いい名古屋の地がすっかり気に入ってしまったようです。私のようなやや偏った道を歩んできた若輩に何ができるのかわかりませんが、名市大に流れる良き伝統を引き継がせて頂きながら、教育、診療、研究、社会貢献のバランスを考え、本学の発展、そして社会や地域の真の要請に応えることができるよう専心努力する所存ですので、どうか皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



明智 龍男 教授

OB訪問

ジャズの風に吹かれて — 大学時代のジャズ — 医療法人修友会藤井医院 藤井 修照

消化器外科OBの藤井修照です。

私はアメリカで生まれてまだ一世紀余しか経っていないジャズを愛し、その素晴らしい芸術を多くの方々に楽しんで頂こうと、コンサート活動を続けて22年になります。国内はもとより海外、主にニューヨークから多くの著明なミュージシャンが田舎のスタジオへ足を運んでくれています。

この活動には放送局をはじめ新聞社からも多大の協力を頂きました。開催の度に素敵なボランティアの方々の援助でここまで継続することが出来ました。いつも演奏者と聴衆との間には、明らかに雰囲気分かる親密な交流が芽生え、いいコンサートが進んでいるという実感もっています。この永い間にコンサートに参加して下さる真のジャズファンが多くなってきて、いい出会いが生まれ、開催には苦勞が伴うものの生き甲斐を感じて頑張っています。このFコンサートは今年の9月で第116回を迎えました。

私のジャズは小学校5年のラジオ制作から始まりました。自作のラジオから聞こえて来た進駐軍放送 FENのビッグバンドジャズを聴いて世の中にこんな素晴らしい音楽があるのだと言う新しい発見が契機でした。

大学教養部2年の時、軽音楽同好会を物理学の竹中助教授に部長をお願いして発足させました。音大の学生と見間違ふほどの技量を持つ音楽部オーケストラのメンバーと比べ、全くレベルの低い我々は必死に練習しました。深夜守衛さんから「もういい加減に帰って下さい」と何度も懇願されたものです。メンバーが固まったのは昭和35年、ギター伊藤祐正(34卒)ベース杉浦譲、ドラム藤井修照(38卒)ピアノ菅原章夫(名大生)これがMJQ 名市大ジャズカルテットでした。時は昭和30年代、市内各大学クラブ主催のダンスパーティが真々盛り、名古屋市公会堂4階ホールで毎週開かれ、何百人もの学生の社交の場となっていました。MJQは安いギャラで引っ張りだこ。プロのグループとも共演し、人気バンドでした。各医局の忘年会、関連病院のクリスマスパーティ、大学祭、他大学バンドと共演、デパートからの依頼にも応ずる忙しさ、医学の勉強は何時したのか覚えがありません。

卒業、自然解散となったMJQのメンバーを中心として、新しいグループ「ザソウルビート」が結成され、中部地区アマチュアバンド コンテストで出場47チームの中で優勝したのは医師になった翌年の事でした。

(スタジオF HP <http://www.dr-fujii.com/> を覗いて下さい)

<略歴>

昭和38年名市大卒。名鉄病院でインターン後、昭和39年名市大第一外科入局。昭和55年医療法人修友会設立。現在名市大外科同門会副会長。



藤井 修照 先生

第52回川澄祭「M∞N～明日を照らそう～」が始まります!(11/4～6) ～実行委員長M4小山 智士さんにききました

第52回川澄祭実行委員長を務めます医学部4年の小山智士と申します。まず始めに、東日本大震災によりお亡くなりになった方々に心よりお悔やみ申し上げますとともに、被災地の方々に謹んでお見舞い申し上げます。さて今年も川澄祭が11月4日から3日間開催されます。この場をお借りして、ご支援して頂いた同窓会、先生方はじめ多くの方々に厚く御礼申し上げます。

第52回川澄祭のテーマは「M∞N～明日を照らそう～」です。M∞N(ムーン)のMはMedicine(医学)、NはNursing(看護学)を表し、この2つを∞(無限大)で繋いで、moon(月)という文字を作っています。医学生と看護学生が無限大に繋がりを協力して大学祭を作りあげるとの意味と、私たち学生が普段学んでいること、すなわち医学・看護学を大学祭という場を通して発表することで、東日本大震災が発生した3月11日から暗い雰囲気を持つ世の中を少しでも明るくしたい、医学と看護学で形作るM∞Nで明るく照らしたい、という学生の思いが詰まっています。

本年度の川澄祭では、毎年恒例の医療系室内大型企画「模擬病院」やゲストなどで盛り上がるステージ企画に加え、テーマ企画「M∞N」というものがあります。この企画は東日本大震災の急性期、慢性期における「医療」にスポットをあてようというもので、現地でどんな人たちがどんな活動をし、どんなことを思っていたかを、来場者や学生に伝えたいと考えています。今回この企画を進めるにあたり、私は多くの当大学病院やD-MAT※、現地病院などをはじめとした多くの医療団体に所属する医師や看護師、薬剤師や保健師の方々と話をしました。そして今回の震災のような大災害において如何に「医療」が重要であるかを改めて認識しました。本年度の川澄祭を通して、来場者の方に「医療」の重要性を理解してもらおうと同時に、参加する学生に自分たちがその担い手になることを自覚してもらえればと思います。それでは川澄祭でお待ちしております。

川澄祭実行委員長 M4小山 智士

★川澄祭Official web site : <http://kawasumisai.web.fc2.com/>

※D-MAT:「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義されており、災害派遣医療チームDisaster Medical Assistance Teamの頭文字をとって略してDMAT(ディーマット)と呼ばれています。

★ 主な企画 ★

- 11/4(金):前夜祭
- 11/5(土):女装コンテスト、エイズ知識普及イベント「Know more AIDS」、ダンスコンテスト
- 11/6(日):ゲスト企画(お笑い芸人)、骨髄バンクチャリティイベント、川澄コスプレサミット、ビンゴ大会、後夜祭
- 全日企画:模擬病院、テーマ企画「M∞N」、4キャンパス企画



第52回川澄祭実行委員会メンバー。前列中央が小山君。皆様のご来場お待ちしております!

研究も!臨床も! MD-PhDコース一期生が博士課程入学しました ～2年目研修医 鈴木 あゆみ先生～

MD-PhDコースに進んで

私が医学部に進もうと思った動機の一つに腫瘍の治療に携わりたいと思ったことがあります。2年生の細胞生化学の講義で、中西教授が腫瘍のメカニズムの中核である細胞周期について研究していると知り、「興味があったら研究室に遊びにおいで」と言われたことが研究に興味を持つきっかけでした。医学部の生活にも慣れ、自由な時間が多くなり、授業後や長期休みに細胞生化学で実験の基礎を学び、実験の考察をし、論文を読むことにも慣れていきました。4年生になった頃に、中西教授からMD-PhDコースを始めようと思うんだけどどうかな?というお誘いをいただきました。完全に基礎に進むつもりはなかったこと、臨床研修制度の義務があること、さらには前例がないこともありいろいろ迷いましたが、臨床へ進んだ際に基礎での研究も活かし、より充実した研究ができればと思いMD-PhDコースに進むことにしました。国家試験が終了した後の前期課程の口頭試問や、研修医1年目での大学院入試など大変なこともありました。がなんとか後期課程に進むことができました。

臨床をしっかりやりたいと思い研修医1年目は関連病院での研修を選びました。今年の4月からは大学病院での研修生活とそれに並行して大学院1年目が始まりました。臨床研修の合間を使って大学院の講義に出席し、再度研究も始めています。きっと人の10倍くらい頑張らないと私の理想の医師像には辿り着けないと言われたこともありますが、とりえず5倍くらいから始めて臨床に活かせる研究の成果が出せればと思います。MD-PhDコースの後輩も少しずつ増え、コースのことも聞いたことがあるという方も増えたと思います。

今後の名古屋市立大学の発展のためにも頑張っていきたいと思いますので、まだまだ臨床も研究も未熟ではありますが皆様ご指導の程よろしくお願ひ致します。
名古屋市立大学臨床研修医2年 鈴木あゆみ(細胞生化学)

【コース概要】本学では学部生時代から研究に従事し、若い時期に研究の芽を開花させ、将来の大学の医学研究を支えていく人材を育成するため、平成21年4月よりMD-PhDコースを設立しました。

本コースの特徴は学部生の前期と、博士課程大学院生の後期に分かれます。前期では、医学部1年次から3年次終了までにコースに入り、その後、基礎医学分野の教室で研究に従事し、6年次にそれまでの研究成果を欧文専門学術雑誌に公表し、審査会で前期終了の審査を受けます。医学部卒業後は、名古屋市立大学病院臨床研修プログラムで初期研修を行いつつ、臨床研修の2年目から後期の博士課程へ入学します。後期の博士課程では引き続き基礎医学分野の教室で研究を続け、3年次に研究成果を学位論文にまとめ審査を受け、博士課程を早期修了し学位を取得します。

また、MD-PhDコースの学生は、川久保学生奨学金によるご支援をいただいでおり、現在、10名の学部生が在籍。この春2名が卒業し、来年4月より博士課程に進みます。



鈴木 あゆみ 先生

先進医療“ロボット手術”

ロボット支援下腹腔鏡手術(以下ロボット手術)は2009年11月に厚生労働省において薬事承認され、今年度より当院においても始まりました。現在前立腺がんに対する手術が行われておりますが、近々消化器外科による消化器がんの手術が開始される予定です。

従来の腹腔鏡手術は、患者さんにやさしい低侵襲手術として、当院においても10年以上前よりさまざまな疾患に対して行ってきました。しかし、従来の腹腔鏡手術の問題点として、特に縫合技術が非常に難しく、縫合技術そのものが手術成績や合併症にむすびつく可能性が報告されています。この問題点を克服するために開発されたのが、ロボット手術です。術式は従来の腹腔鏡手術と同じですが、手術時に必要とされる操作をロボット支援下に行うため、より正確な操作が可能です。アメリカ・ヨーロッパや韓国を中心に、従来の腹腔鏡手術で行われた手術は、現在ロボット手術に置き換っています。特に前立腺がんに対するロボット手術は海外ではすでに一般化されており、アメリカでは前立腺がんの手術の約85%がロボット支援下に行われています。

ロボット手術は、内視鏡下手術用ロボット(ダヴィンチS)支援下を実施します。本システムは、操作ボックス(サージョンコンソール)、実際に術野に挿入するロボットアームが装着された装置(サージカルカート)、術野をうつしだすモニター(ビジョンカート)の3つの装置に分けられます。術者はサージカルコンソールに座り、10倍の拡大視野を得、遠近感を有した三次元画像を見ながら手術操作を行うことが可能になります。術者が操作レバーをあやつることによってサージカルカート上のロボットアームを遠隔操作することができます。ロボットアームには、エンドリストと称する、手術操作を行う鉗子先端部の70度の可動性を有する関節機能および高い自由度を有しており、これにより正確な手術操作を行うことが可能になります。

前立腺摘除後の膀胱と尿道の吻合がより正確に可能であるため、尿失禁などの合併症が他の術式に比べると少ないとされています。また視野の確保に優れているため、時として神経温存が可能なることもあり、術後の勃起機能が期待できる場合があります。現在のところわが国においては保険適応が認められていませんが、腹腔鏡手術の欠点を補う、まさに“先進医療”であり、今後は日本全国で普及することが期待されています。

本手術を始めるにあたり、半年以上の準備期間を必要としました。中央手術部手術支援ロボット運用検討ワーキンググループが中央手術部岡田副部长のもと立ち上げられ、麻酔科、消化器外科をはじめとした各科、看護部特に中央手術部や11階南の看護師さん、臨床工学技士さん、医事課、業務課、病院経営係をはじめとした病院事務の方々の多大なるご理解とご支援により、とどこおりなく開始することができ、新たためてチーム医療の大切さを実感しました。わが国において前立腺がんが急速に増加する中、名古屋市でも前立腺がん検診が開始され、早期発見に行政も取り組んでおります。今後みなさんのご指導をたまりながら、患者さんによりよい医療を提供できればと考えております。

腎・泌尿器科学 梅本 幸裕、小島 祥敬、安井 孝周、戸澤 啓一



内視鏡下手術用ロボット(ダヴィンチS)



ロボット支援下腹腔鏡下前立腺全摘除術の様子

地域貢献・地域活動

OB訪問番外編～南の島からの便り

旭労災病院 院長 勝屋先生から、広報部宛にお手紙が来た。「市大出身の医師が最西端の島の診療所でもう10年も活動しています。以前から一度訪問したく、この1月会ってきました。」離島の診療所を担うその先生の名は花村泰範先生(562年卒)。与那国島の本物のDr.コトーに私もお会いしたくなった。

石垣島から120キロ。台湾まで110キロ。与那国島はまさに絶海の孤島です。ドラマ「ドクターコトー診療所」はこの島で撮影されました。私がこの島に医師として勤務し10年が過ぎました。人口1600人の島に医師は一人。

毎日様々な病気の患者様が訪れます。眼科や耳鼻科の経験はなく同窓生に電話で相談しながら見よう見まねでやってきました。深夜の急患も多く24時間気の休まる時はありません。思えば大変な10年でした。島には入院施設はなく重症患者はヘリコプターで石垣の病院に搬送されます。搬送要請からヘリの到着まで数時間かかることもありその間に患者様が亡くなられたことも度々ありました。CT等の高度な医療設備はなく、きわめてベーシックな医療機器だけで全ての疾患に対応しなければなりません。血液検査からレントゲン撮影、投薬に至るまで何でもこなします。

昭和62年に名古屋市立大学を卒業し麻酔科に入局した後、整形外科、内科を経てかねてから興味があった離島医療を行うために与那国島にやってきました。それまでほとんどの医師が1～2年で辞めてしまい自分がどこまでできるか不安だらけでしたが、休診日は急患の合間にカジキ釣りをしたり、毎日の診療後は島を自転車で回ったりと気分転換しながらなんとか続けて来れました。

今年の10月50歳になるのを機に一旦、退職します。自分の人生の半分を医師として過ごし与那国島で10年仕事をし、ここらでのんびりリフレッシュし新たなキャリアを探そうと思っています。 花村 泰範

略歴

S62年 / 名古屋市立大学卒業
麻酔科入局
H3年 / 春日井整形外科病院
H7年 / 半田クリニック
H10年 / 美浜クリニック
H13年 / 与那国診療所～現在に至る



訪問した
勝屋先生と



ここであらゆる
患者さんを
診てきました。



ここが最西端の
診療所です



桜山の懐かしいお店紹介 —第10回「山田餅」さん

誕生餅をご存知ですか?日本には1歳の誕生日に足の形を模した紅白の1升餅を背負って歩かせ、赤ちゃんが粘り強く一生歩いていけるようにお祈りする伝統がある。

山田餅さんは、他にも、神様が宿る御神体として供える鏡餅や妊娠5ヶ月ごろの「戌」の日を祝う帯祝い餅など、お餅を通じて日本の文化を受け継いでいる。国産の餅米と小豆をふだんに使い、昔と変わらない製法によって一流の味を追求した和菓子の数々を早速試食。まず、夏いちおしの水まんじゅうは、一旦冷凍庫に入れて少し解凍したところを頂くのが、おいしい。土用の日に食べると元気になると伝えられる土用餅は、しっかり味のついたあんによく練り込まれた餅がうまい。この地域特有のお菓子としては、黒砂糖の味でもちっとした食感が楽しい三角ういや、麩まんじゅうをサンキライの葉で包んだサンキラがおすすめ。定番の大福や草餅は、山田餅の売りである上質なお餅のもちもち感がたまらない。珍しいのが「あん豆ふ」という羊羹をなめらかにしたような和菓子で、冷やして頂くと、とろけるような口溶けが研究室の皆にも好評だった。意外にも、山田餅さんが太鼓判を押すのがカボチャプリン。濃厚なカボチャペーストがやみつきになる。お茶のお供に和菓子を頂いた後、ほっとしている自分がいて日本人だと実感した。

山田餅さんのご好意により「今年の11月末までに瑞医を持ってお菓子をご購入のお客様に粗品を進呈します。」とのこと。 (大学院博士課程 中口 加奈子)



研究室のメンバーで
食べ比べましたが、
どれも美味しかったです!



山田餅ホームページ
<http://www.yamadamochihonten.co.jp/index.html>

Many friends are learning in “学びなおし講座”

進歩する医療に対応できる人材の育成! 高度の専門知識に基づいた看護・介護・運動療法等への対応! 職場復帰に対する不安解消のサポート! This is “学びなおし講座” 本年度で4年目に突入、多くの参加者から好評の講座(本年度から有料)、学校教育法に基づく履修証明書を取得できる高度な再教育プログラム! 名古屋市立大学の地域貢献: 知の市場! 託児サービスもあり育児中の方も安心受講、That is “学びなおし講座” 春期の3講座(これだけは知っておきたい日常治療薬の使い方、災害・急性期医療に対応するスキルをみがく、高齢社会における神経疾患Up to date)の各15回のwonderful classesはすでに終了、It is “学びなおし講座” 秋期の3講座は9月末より展開中。詳しくは、(www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/manabi/index.html) をご覧ください。… 医学研究科HPからも入れます

(脳神経生理学 教授 飛田 秀樹)

【秋期科目概要】

■ **診療に役立つ検査を学ぶ～基礎から応用編**…いったん臨床現場を離れた医師、臨床検査技師、看護師などを対象に各種検査の基本的な理解を深め、現場復帰を促すカリキュラムです。基礎コースからはじまり、それぞれの目的に即した応用コースを受講することにより、各種検査に関する専門的な知識のみならず、それぞれの検査の臨床的有用性を習得されたい。一部のコースでは、実習も行う予定です。

■ **感染症再考 よく見る感染症～知っておきたい感染症**…感染症の領域は広くて深い。医学の歴史は感染症に対峙しながら進んできたともいえる。しかし感染症の診断・治療・予防が飛躍的に進歩した今日でもなお、発展途上国のみならず先進国においても未だに解決できない種々の問題が残されている。医療に携わる関係者は最新の情報を含む感染症の知識を身につけ、質の高い医療を提供することが要求されている。

■ **Birth Tour 2011 —安全なお産を目指して…**分娩は“十人十色”ですが、願いは一つ。“安全なお産”です。少子化の進む日本では分娩数は減少していますが、ハイリスク分娩は増加しています。またひとつひとつの妊娠や分娩に関わる医療も、より濃厚なものになってきています。日本の妊婦死亡率や新生児死亡率は世界中でも極めて低く、高い周産期医療水準であることを証明しています。このレベルを維持するため分娩に携わる医師、助産師、看護師、救急救命士らがより高い知識と技術を身につけることが重要です。



受講生は看護師、助産師、薬剤師、救急救命士、介護福祉士の方で占めています。



シミュレーションセンターの実習でスキルアップ。



学びなおし講座は沢山の方に支えられています。

名市大主催学会のご案内

第26回日本生殖免疫学会

期 日：平成23年12月2日～3日
 会 場：愛知県名古屋市市中村区名駅 4-4-38
 ウィンクあいち
 主 催：杉浦 真弓教授(産科婦人科学)
 大会 HP(<http://seishokumeneki.kenkyuukai.jp/>)

第6回日独エイズシンポジウム

期 日：平成23年11月21～22日
 場 所：ドイツ連邦 ボッカム市ルール大学
 医学部聖ジョセフ病院講堂
 主 催(共催)：ブロックマイヤー教授、
 岡本 尚教授(細胞分子生物学)

【医学振興】寄附金ご協力をお願い

本学は、平成18年4月、公立大学法人として新たな一歩を踏み出し、教育・研究活動をより一層活性化させるための財政基盤の確立を目的として、同年8月「公立大学法人名古屋市立大学振興基金」を設立いたしました。本学に課せられた使命を着実に果たしていくためには、優れた教育・研究・診療環境の整備、充実が必須であり、広く皆様からの財政的ご支援をお願いしてまいりたいと存じます。

なお、これまでに寄せられたご寄附は、既に研究棟の改修や身障者用トイレの設置等、環境整備のために有効に利用させて頂いております。

皆様におかれましては、この基金の趣旨をご理解いただき、「市立大学振興基金(医学振興)」に、ご賛同賜りますようお願い申し上げます。

※寄附金については税制上の優遇措置が設けられております。詳しくは、下記担当までお問い合わせください。

問 合 せ 先 ご賛同いただける方にはご案内をお送りします。

名古屋市立大学 医学部事務室 市立大学振興基金【医学振興】担当
 TEL:052-853-8077(土・日・祝日を除く9:00～17:00) FAX:052-843-0863

広報誌：瑞 医(ずい)

発 行：名古屋市立大学大学院医学研究科・医学部
 〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
 TEL(052)853-8077 FAX(052)842-0863

URL <http://www.nagoya-cu.ac.jp>

※次号の発行は平成24年2月下旬発行予定です。[年3回 2月・6月・10月]

☐☐
**我こそは
 通信員!**

広報誌「瑞 医」へ最新の話題をお届けして下さるサポーター大募集! [今、当講座ではこんな若手が頑張っています!] など広報委員会へ取り上げてほしい話題を教えてください。教職員・学生、身分は問いません。我こそは、という方は、igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp または医学部事務室 広報担当まで